

〈 中学校総合的な学習の時間部会 〉

研究主題

各教科等の学習と豊かにかかわりあう「総合的な学習の時間」の在り方
～日本の伝統や文化にかかわる単元開発を通して～

I 研究の目的

平成15年12月の学習指導要領の一部改正において、新たに規定されたように、各学校の総合的な学習の時間においては、各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活に生かし、それらが総合的に働くようにすることが強く求められている。

そこで、今回は研究主題を、「各教科等の学習と豊かにかかわりあう「総合的な学習の時間」の在り方」と設定し、東京都教育委員会の教育目標に示されているように、「我が国の歴史や文化を尊重し国際社会に生きる日本人の育成」を重視する観点から、日本の伝統や文化にかかわる単元開発を通して研究開発を行った。

II 研究の方法

はじめに、各教科等で身に付けた様々な資質や能力相互の関連付け、深化・総合化を図っていくための方向性や視点を明らかにする研究を行い、その上で、研究内容が実際の中学校の教育活動に生かせるよう、指導計画及び指導内容の立案と授業による検証を行い、実践事例としてまとめた。

III 研究の内容

1 「総合的な学習の時間」と教科等との関連について

「初等中等教育における当面の教育課程及び指導の充実・改善方策について（答申）」

（中央教育審議会 平成15年10月7日）より抜粋

- 「総合的な学習の時間」の現状と実施上の課題等
教科等との関連に十分配慮していない実態
- 当面の充実・改善方策
 - ◇ 学習指導要領の記述を見直すことにより、各教科等で身に付けた資質や能力相互の関連付け、深化・総合化の観点や計画的な指導、学年間・学校間・学校段階間の連携などが重要であることを明確化する必要がある。
 - ◇ 各学校では、各教科等における学習との関連、知識や技能と生活との結び付きに配慮しつつ、学びへの動機付けを図る指導を行うこと。



《 総合的な学習の時間の設置の趣旨 》

各教科等の学習を通じて身に付けられた知識や技能、資質や能力は、本来生徒の中で一体となって働くものである。

★ 分化を特色とした各教科等の学習の問題点

- ⋮ ① 他教科との関連が図りにくい
- ⋮ ② 実際の社会や生活の諸事象は未分化であり、学校知に陥りやすい
- ▼ ③ 社会の変化や新しい教育的要請に対応しにくい

☆ 総合的な学習の時間の設置により知の総合化を積極的に推進

- ① 各教科等で身に付けられた知識や技能等を相互に関連付け、深め、総合的に働くことを目指す。
- ② 学校で学ぶ知識と実生活の結びつき、知の総合化の視点を重視し、各教科等で得た知識や技能等が実生活において生かされ総合的に働くようにする。

総合的な学習の時間の設置の趣旨の徹底を図る

学習指導要領一部改正(平成15年12月)

第4 総合的な学習の時間の取扱い

2 総合的な学習の時間においては、次のようなねらいをもって指導を行うものとする。

(1)、(2) (略)

(3)各教科、道徳及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすること。

3 各学校においては、1及び2に示す趣旨及びねらいを踏まえ、総合的な学習の時間の目標及び内容を定め、…。

4 各学校においては、学校における全教育活動との関連の下に、目標及び内容、育てようとする資質や能力及び態度、学習活動、指導方法や指導体制、学習の評価の計画などを示す総合的な学習の時間の全体計画を作成するものとする。…

《教科等との関連を図る方向性》

- ① 教科等の学習の成果を「総合的な学習の時間」の学習に生かす。
- ② 「総合的な学習の時間」の学習の成果を教科等の学習に生かす。
- ③ 教科等の学習と「総合的な学習の時間」の学習の相乗効果により、生徒の「生きる力」としての「確かな学力」を育成する。

《教科等との関連を図る視点》

- ① 各教科等の目標と総合的な学習の時間の目標との関連
- ② 各教科等の指導内容、教材(題材)、学習活動と総合的な学習の時間の内容、学習活動との関連
- ③ 各教科等で身に付けた資質や能力と、総合的な学習の時間で発揮される資質や能力との関連

《教科等との関連を図るポイント》

- ① 学校全体としての共通理解を図り、教師全員の「協同」により推進する。
- ② 全体計画・指導計画の作成に当たっては、教科等との関連について具体的に示す。
- ③ 分化されていない現実の社会や生活を対象にした課題を設定する。
- ④ 教科等の学習成果を活用する見通しのある課題及び学習活動(追究的な学習、発表・表現の場)を設定する。
- ⑤ 総合的な学習の時間の学習活動において、生徒が教科等の学習の有用性に気づき、その学習成果を意識化するための支援を行う。
- ⑥ 各教科等の学習においても、「総合的な学習の時間」との関連を意図した授業を展開する。

2 日本の伝統や文化にかかわる学習課題の設定について

《課題設定の視点》 現在の生徒の特質に着目し、未来の日本の社会を担う人間にとって必要な資質や能力、態度を育成する。

東京都教育委員会の教育目標に「我が国の歴史や文化を尊重し国際社会に生きる日本人の育成」と示されているように、生徒が日本の伝統・文化について理解を深め、国際社会に生きる日本人としての自覚と誇りをはぐくむ課題を設定する。

日本の歴史、伝統、文化を正しく後世に伝え、日本や日本人のアイデンティティを確立し、我が国が国際的に尊敬される国となるためには、我が国の伝統や文化について理解を深める教育を推進する点で、学校教育の果たす役割が極めて大きい。

3 具体的な事例

【事例1】 単元「日本の伝統的な遊びやゲーム ～地域との交流を深めて～」(第1学年)

日本には、囲碁・将棋のような盤上ゲームからこま・けん玉・あやとりなどの伝承遊びまで、さまざまな伝統的な遊びやゲームがあり、多くの生徒は幼少の頃より、何かしらで遊んだ経験をもつ。

そこで本単元では、生徒にとって身近な“遊び”にかかわる日本の伝統を学習の対象として、生徒一人一人が自ら課題を設定し、主体的・創造的に追究し、解決する学習活動を行う。

(1) 単元のねらい

- 伝統的な遊びやゲームに息づく日本独自の文化や伝統の特性を追究し、そのよさや継承していくことについて考える学習活動を通して、自ら価値ある課題を見だし、意欲的・計画的に追究する資質や能力を育てる。
- 伝統的な遊びやゲームについて調べたり、体験したり、地域の人との交流を深めたりする活動を通して、学んだことを学習や生活に生かそうとする意欲や態度を育てる。

生徒の学習活動は多様であり、教科等との関連も多岐にわたるが、計画においては、網羅的になることなく焦点化して示し、重点的に取り組めるようにする。

(2) 単元の指導計画

	時	学習活動	学習形態	指導上の留意点	教科等との関連
課題設定	1	学習のねらい等について説明する。	一斉		
	2	日本の伝統的な遊びやゲームを調べる。	一斉	インターネットや図書館の活用	技術 (情報の収集・判断・処理)
	3	日本の伝統的な遊びやゲームについて地域の人から話を聞く。	一斉	地域以外の、専門的な知識・技能をもつ人などの場合もある。	国語 (話す・聞く能力)
	4 5	地域の人に、子供の頃にどんな遊びをしていたか、インタビューする。	個人 グループ	保護者・町会等を通じて、インタビューできる人と日時の手配をする。	国語 (話す・聞く能力)
	6	日本の伝統的な遊びやゲームの中から1つ選び、自分の課題を設定する。	個人	課題は選択する形式をとるが、選択肢にないものを課題とすることも可能とする。	
	課題追究	7	設定した課題ごとに編成したグループで、追究の仕方や学習の見通しについて意見を交換する。	グループ	グループの担当教師が、有意義な話し合い活動となるよう、指導する。

課題 追求	8 9	遊びやゲームの歴史を調べる。 調べた過程や結果をワークシートにまとめる。	グループ		※ <u>社会</u> (社会的な思考・判断、資料活用の技能・表現) 技術 (情報の収集・判断・処理)
	10 11 12 13 14	遊び方を学ぶ。 遊びで使うものを作る。	グループ	グループごとに話し合い、インターネットや図書館を利用した情報収集、専門的な知識技能をもつ人への取材活動 ⇒遊び方を学ぶ ⇒使うものを作る	社会 (社会的な思考・判断、資料活用の技能・表現) ※ <u>美術</u> (意図に応じた材料や用具の生かし方等) ※ <u>技術</u> (材料に適した加工法等)
	15 16 17 18	学んだ遊びを、教えたり、伝えたり、一緒に遊んだりする。 《対象》 幼稚園・保育園、小学校の幼児児童、高齢者、外国人など	グループ	・幼稚園・保育園 ・小学校 ・高齢者福祉施設 ・外国人学校等との連携を図る。 学校の施設を使い、招待する形式で活動を行うが、訪問形式の活動も可能である。	国語 (話す・聞く能力) 家庭 (幼児との触れ合いやかかわり方の工夫) 英語 (簡単な表現を用いたコミュニケーション)
ま と め	19	グループの活動を振り返る。	グループ 個人	グループの担当教師が、有意義な話し合い活動となるよう、指導する。	国語 (話す・聞く能力)
	20 21 22	追究した内容の発表に向けて準備する。	グループ 個人	プレゼンテーション用ソフトの操作方法は事前に学習しているが、状況に応じて個別に指導する。	国語 (話す・聞く能力、書く能力) 技術 (ソフトウェアを用いた表現・発信)
	23 24	発表会を行う。 自分の学習の最後のまとめを行う。	一斉 グループ 個人	日本独自の文化や伝統の特性やよさ、継承していくことの大切さなどについて、さらに深く考える機会とする。	国語 (話す・聞く能力、書く能力) 技術 (ソフトウェアを用いた表現・発信)

(3) 教科等との関連を重視した具体的な取組

「単元の指導計画」に基づいた活動の二つの場面を取り上げ、具体的な取組を示す。

ア 社会科との関連

《課題追究段階における「遊びやゲームの歴史を調べる」学習活動において》

学習活動	社会科の教師による指導
<p>インターネットや図書館を利用して、遊びやゲームの始まり、時代背景などを調べる。 調べた過程や結果をワークシートにまとめる。</p>	<p>各グループを巡回し、生徒の疑問点に答えるなど、社会科の学習内容を生かしながら調べ学習が進むように指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 歴史的な事象から課題を見だし、歴史の流れと時代の特色を広い視野から考察し、適切に判断できるようにする。 ○ 各種の資料を適切に選択して収集・活用し、調べた過程や結果を適切に表現できるようにする。

イ 技術科・美術科との関連

《課題追究段階における「遊びで使うものを作る」学習活動において》

本事例は、**凧**を選んだグループが、単に作り方を学ぶためではなく、昔から伝わる凧を作ることを通して、日本の文化や伝統の特性を追究する学習活動である。

学習活動	技術科・美術科の教師による指導の内容
<ul style="list-style-type: none"> ○ インターネット等を利用して、昔ながらの凧の作り方を調べる。 ○ 設計図や材料表を作成する。 ○ 凧を作る。 <ul style="list-style-type: none"> ・材料の準備 ・材料の加工 ・材料の組立 ○ 凧を実際に飛ばし、構造等の調整をする。 	<p>(技術科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ インターネットを活用した、情報の収集・判断・処理について ○ 制作可能な凧の作り方について ○ 技術科の既習の学習内容を確認させながら、 <ul style="list-style-type: none"> ・設計図の作成（簡単な図面） ・工具の使用法 ・材料に適した加工法 などについて <p>(美術科)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 美術科の既習の内容を確認させながら、 <ul style="list-style-type: none"> ・美しく装飾するための表現の工夫 ・意図に応じた材料や用具の生かし方について



遊びで使うものを作る学習活動においての凧の作品例

- ◇材 料：紙（和紙など）又はビニール（ポリ袋）、竹ひご、のり、セロハンテープ、紙テープ、糸
- ◇凧の種類：①字凧「四角い凧に国、龍、嵐、綿、虎などの字を書いたもの」
②絵凧「四角い凧に達磨（だるま）、金太郎、般若（はんにゃ）などの絵を描いたもの」
③細工凧「笛やうなりなどの共鳴具をつけたもの」など

(4) 教師全員の「協同」により教科等との関連を図る

学習活動において、生徒が教科等の学習の有用性に気付き、その学習成果を意識化するための効果的な指導は、当該教科の教師のみに依存するのではなく、教師全員の共通理解による「協同」で行う必要がある。

ア 学習活動の各段階において、教師が教科等の既習の学習内容を確認しながら指導する場面を事前に想定し、それを一覧にした資料を作成し、生徒の学習活動にかかわるすべての教師が、その資料をもとに指導する。(担当教科に関係なく指導したり、当該教科の教師からの指導を求めるように助言したりするなど)

◎ (例) お手玉を課題として設定した場合の一覧表

	課題設定	課題追究	まとめ
国語	・グループでの話し合い活動 ・地域の人へのインタビュー	・お手玉歌の歌詞の意味調べ ・グループでの話し合い活動	・発表原稿作成 ・発表会での話し方聞き方
社会		・お手玉についての歴史を調べる。 ・時代背景などを調べる。 ・調べた過程や結果をワークシートにまとめる。	
英語		・外国の人に紹介する。	
音楽		・お手玉歌を歌う。	
技術	・インターネットによる情報の収集・処理	・インターネットによる情報の収集・処理	・プレゼンテーション用ソフトの活用
家庭		・お手玉を作る ・幼児との触れ合い	

イ ポートフォリオとしてファイル化される学習記録カードを工夫することにより、生徒の教科との関連の意識化を図り、教師が効果的な指導を行うために活用する。

総合的な学習の時間		学習記録カード	____月____日				
()年()組()番 氏名()							
1	課題	凧あげの魅力					
2	今日の学習内容	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th style="width: 50%;">学習内容</th> <th style="width: 50%;">教科などで習ったことや学んだことを、思い出したり、生かしたりした場面はありましたか？</th> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">凧の材料を組み立てた！</td> <td style="text-align: center;"> 国、社、数、理、英 音、美、保体、技・家 道徳、特別活動 </td> </tr> </table>		学習内容	教科などで習ったことや学んだことを、思い出したり、生かしたりした場面はありましたか？	凧の材料を組み立てた！	国、社、数、理、英 音、 美 、保体、 技 ・家 道徳、特別活動
学習内容	教科などで習ったことや学んだことを、思い出したり、生かしたりした場面はありましたか？						
凧の材料を組み立てた！	国、社、数、理、英 音、 美 、保体、 技 ・家 道徳、特別活動						
3	質問したいことや困っていることなど (担当教科の先生に聞いてみよう！)	技術か美術だと思うんですが、和紙が竹の					

【事例2】 単元「お正月を楽しもう」(第2学年)

(1) 学習活動の概要

「お正月」の迎え方に息づく日本らしさを題材として、生徒が自ら価値ある課題を見だし、意欲的・計画的に追究し、日本の伝統・文化について理解を深め、そのよさや継承することの大切さについて考える学習活動である。

発表段階では、各グループが屋台形式で発表する。

(2) 単元の位置付け

<p>【学校の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら課題を設定し、主体的・創造的に追究し、解決する資質や能力を育てる。 ○ 探究活動に主体的に取り組む過程を通して、学び方を身に付けるとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとする意欲や態度を育てる。 <p>【評価の観点】</p> <p>○課題を設定し解決する力 ○主体的に追究する力 ○調べ方や学び方 ○実践する力</p> <p>【学年の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら価値ある課題を見だし、意欲的・計画的に追究できるようにする。 ○ 各教科等で学んだことを生かして追究し、自己の課題に応じた方法で追究やまとめを行う。 ○ 地域の文化・伝統との結び付きを自己の生き方に照らして考えるとともに、学んだことを生活に生かしていけるようにする。 <p>【学年の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 生活の身近なところに息づく日本独自の文化や伝統の特性を追究し、そのよさを考える。 ○ 日本独自の文化や伝統のよさを調べたり、体験したりするとともに、それらの活動を通して地域の人と交流する。

(3) 単元のねらい

- 「お正月」の迎え方に息づく日本らしさを題材として、日本独自の文化や伝統の特性を追究し、そのよさや継承していくことについて考える学習活動を通して、自ら価値ある課題を見だし、意欲的・計画的に追究する資質や能力を育てる。
- 「お正月」の迎え方に息づく日本らしさについて調べたり、発表したり、地域の人との交流を深めたりする活動を通して、学んだことを学習や生活に生かし、よりよく生きようとする態度を育てる。

(4) 単元の指導計画

段階	時	学習活動	学習形態	教科等との関連	その他指導上の留意点
つ か む	1	<p>《オリエンテーション》</p> <p>「お正月」の迎え方に息づく日本らしさについて考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習活動について説明を聞く。 ・学習シートを活用し「お正月」について考える。 ・「私が子どものころのお正月の迎え方」について教師の話聞く。 	学年		様々な家庭の生活習慣や諸状況に配慮する。
	2		学級		

3 4	《ミニ講座》 ・講座は各25分、4講座	学級	該当教科	ミニ講座は、教師が教科性をもとに、「お正月」の迎え方に息づく日本らしさについて、生徒の興味・関心、学習への意欲を喚起させ、課題設定のヒントとなるようなものとする。																								
	(例) ①⇒④の順番で講座が展開	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>内 容</th> <th>1組</th> <th>2組</th> <th>3組</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>国語</td> <td>いろはかるたと百人一首</td> <td>①</td> <td>③</td> <td>②</td> </tr> <tr> <td>社会</td> <td>地域による違い、時代による違い</td> <td>③</td> <td>①</td> <td>④</td> </tr> <tr> <td>技術</td> <td>正月飾りに息づく日本の“技”</td> <td>②</td> <td>④</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>家庭</td> <td>日本の正月料理</td> <td>④</td> <td>②</td> <td>③</td> </tr> </tbody> </table>				内 容	1組	2組	3組	国語	いろはかるたと百人一首	①	③	②	社会	地域による違い、時代による違い	③	①	④	技術	正月飾りに息づく日本の“技”	②	④	①	家庭	日本の正月料理	④	②
	内 容	1組	2組	3組																								
国語	いろはかるたと百人一首	①	③	②																								
社会	地域による違い、時代による違い	③	①	④																								
技術	正月飾りに息づく日本の“技”	②	④	①																								
家庭	日本の正月料理	④	②	③																								
つかむ	5 《テーマ設定》 ・ミニ講座等をもとにテーマを設定する。 ・各自のテーマをもとに分野別にグループ(複数)分けをする。(生活・遊び・芸能・習慣)	個人																										
追究する	6 7 8 9 10 ・ ・ 14 《調査・探究活動》 ・インターネットの活用 ・保護者や地域の方にインタビュー ・同じ分野内でグループ毎に中間発表 ・意見交換、多角的な視点、新たな課題発見、 ・新たな調査・探究活動	学年 グループ	技術 (情報の収集・判断・処理) 国語 (話す・聞く能力) 社会 (社会的な思考・判断、資料活用の技能・表現)	グループ担当教師による助言 (教科の既習の内容を思い出したり、生かしたりできるように) ・生徒の声や状況をもとに、教科の教師につなげたり、「～で習ったことが生かせないかな」等の助言をする。																								
	15 16 ・ ・ 21 22 《発表会準備》 ・グループごとに屋台形式で ・発表のための企画、準備 実演練習、発表等のための原稿作成 《発表会『お正月 in ΔΔ中』》	グループ グループ 学年	技術 (情報の収集・判断・処理) 国語 (話す・聞く能力、書く能力) 社会 (社会的な思考・判断、資料活用の技能・表現) 数学 (数学的な見方や考え方、数学的な表現・処理)	保護者、地域の方の参加の呼びかけ																								
広げる	23 24 《学習のまとめ》 自分の学習の最後のまとめを行う。			日本独自の文化や伝統の特性やよさ、継承していくことの大切さなどについて、さらに深く考える。																								
	25 26																											

(5) 学習活動の具体例

ア 発表会『お正月 in ΔΔ中』

① 第1次発表会（2時間）

…第2学年の生徒全員で行う。準備・運営を生徒が行う。

グループごとの発表は、実演（独楽回し、凧揚げなど）含む屋台形式

② 第2次発表会（特別活動として2時間）

…保護者や地域の方を招き、全校生徒が参加して行う。準備・運営は第2学年の生徒が行う。実演含む屋台形式で、各グループが発表する。

百人一首大会等を行う。

イ 《ミニ講座》の学習シート例

<p style="text-align: center;">技術科で習ったことを思い出そう！</p> <p style="text-align: center;">—正月飾りに息づく日本の“技”—</p> <p>1 正月飾りってなに？</p> <div style="border: 1px solid black; height: 30px; width: 100%;"></div> <p>2 正月飾りの写真や実物を見て、“この技がすごい！”を発見！</p> <div style="border: 1px solid black; height: 40px; width: 100%;"></div> <p>3 材料や道具について ～作り手の智慧と努力～</p> <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%;"></div>
--

<p style="text-align: center;">社会科で習ったことを思い出そう！</p> <p style="text-align: center;">—地域による違い、時代による違い—</p> <p>まずは…</p> <p>1 初日の出が日本で最初に見られるのは？…（ ）</p> <p>2 はがきで年賀状を送る習慣が広まったのは？…（ ）時代から</p> <p>3 江戸時代になると（ ）の図柄は、町人文化・元禄文化を反映して、（ ）の役者絵が多く描かれるようになり、その後、錦絵の影響を受けた貼り絵のものが作られ、江戸時代の終わり頃には、押絵を応用したものが作り出され、高い人気を博した。</p> <p>4 ・焼いた切り餅と鶏肉を使った澄まし汁のお雑煮(Aさん宅) ・焼かない丸もちと豚肉を使った味噌汁のお雑煮(Bさん宅) ・焼かない丸もちとぶりをを使った澄まし汁のお雑煮(Cさん宅)について考えよう。</p>
--

IV まとめ

学校の教育目標の実現のためには、教科か総合的な学習の時間かといった対立的なとらえ方ではなく、各教科等と総合的な学習の時間の、それぞれの目標と設定の意義を踏まえながら、相互の関連と全体的なバランスを図り、教育課程を編成しなければならない。

したがって、総合的な学習の時間と各教科等の関連について具体的に明示した、総合的な学習の時間の全体計画の作成が、極めて重要となる。

中学校学習指導要領解説－総則編－には、「各教科等で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、学習や生活において生かし、それらが総合的に働くようにすることがあることから、各教科等との関連をあらかじめ見込んで全体計画を作成する必要がある。」と示されている。

全体計画の作成について、《教科等との関連を図る視点》として示した三つの視点に基づいて整理すると、以下のように考えることができる。

① 各教科等の目標と総合的な学習の時間の目標との関連

総合的な学習の時間の目標を設定する際に、各教科等に示された目標のうちから重点的に取り上げて関連付けるなどが考えられる。

② 各教科等の指導内容、教材(題材)、学習活動と総合的な学習の時間の内容、学習活動との関連

観察や実験、発表や討論、様々な体験活動などを総合的な学習の時間で計画する際に、教科等の指導内容等と関連するように同じ時期に設定したり、教科等の指導計画に総合的な学習の時間での取組についても明記し学習に生かしたりすることが考えられる。

③ 各教科等で身に付けた資質や能力と、総合的な学習の時間で発揮される資質や能力との関連

各教科等で身に付けた資質や能力について、評価の観点に示された評価規準を基に、学習の状況等から具体的にとらえる。

生徒全体にかかわるものや、学習活動において中心的に働く資質や能力に焦点化し、それらの資質や能力が相互に関連しながら生かされ総合的に働くことを目指し、学習活動の対象や内容を工夫して、重点的に取り組むことなどが考えられる。

教科等と豊かにかかわりあう「総合的な学習の時間」を実現するには、多様な展開を見せる生徒の学習活動の具体的な場面に接する教師が、一人一人の学びのプロセスに合わせ、教科の既習の内容を思い出させ生かさせるための、適切な指導を行っていくという地道な取組が基盤となる。

それが、一部の教師へのまかせっきりであったり、教師間で十分話し合われていないため共通理解が図られていなかったりしては、総合的な学習の時間を実りあるものとはできない。

生徒が教科等の学習の有用性に気付き、その学習成果を実感し、学習意欲などの資質や能力を高める総合的な学習の時間を実現するためには、全教師による協同の取組が不可欠である。